

# 新潟県高等学校教育研究会「総合分野」研究会

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教諭 八木 浩一

- 1 期 日 平成 26 年 11 月 26 日 (水)
- 2 会 場 瀬波温泉「大観荘 せなみの湯」
- 3 参 加 10 校 18 名
- 4 日 程  
受 付 9:45～10:10  
開 会 10:15～10:35  
講 演 ① 10:40～11:35  
質 疑 応 答 11:35～11:40  
講 演 ② 12:30～13:45  
質 疑 応 答 13:45～13:50  
町屋見学 14:00～16:10
- 5 講 演 ①

演題「瀬波温泉の歴史と現在における取り組み」

講師 大観荘せなみの湯 小田 慶一 様



## (1) 瀬波温泉の歴史

明治 37 年に石油を採掘していて温泉が発見されたのが始まりである。平成 24 年に 110 周年を迎えたが、関西方面と比べると比較的新しい温泉地といえる。

明治 43 年に七軒の湯治宿として始まり、冬場は海風が強風になるため営業ができず、村上市内近くの山際に建物を建てていた。

昭和 2 年ころから海岸に近い場所に一軒また一軒と旅館が進出していった。また、昭和 12 年には与謝野晶子が瀬波温泉に 2 泊 3 日逗留し、四五首の詩を詩ったが、現在、瀬波温泉街に樹木にプレートをはめ込んだ歌碑が建っている。

昭和 25 年に瀬波温泉観光協会が設立され、近くにはすずきヶ池公園があり、公園内では貸ボート・ローラースケート場・釣り堀・遊園地などがあり盛況をはくした。

昭和 50 年代になり、全国的に団体旅行が流行していく中で「歓楽街がなかったため。」瀬波温泉はやや衰退期をむかえた。

## (2) 現在における取り組み

8 月中の 3 日間に瀬波海岸において、潮太鼓のこども発表会・花火大会・抽選会など地域住民と宿泊客も一緒に楽しめるイベントの企画を地道に行なってきたことで、少しずつ個人のリピーターの旅行客も増加してきている。

そして、平成 21 年には、瀬波温泉街で出る食料残飯と酵素および温泉熱を利用したバイオマス発電による「売電」や「熱帯植物園」の運営に利用する施設ができ、全国の大企業や自治体からも注目されている。

また、村上の町屋が有名になることで、村上市内は平日でも多くの人が市内を歩く姿が目につくようになり、それに伴って瀬波温泉の宿泊客数も増加している。

特に、3月の「お人形さま巡り」9月の「屏風まつり」などのイベントで歴史や人情に触れてもらっている。また、体験的なものとして、お茶ソムリエ・椎朱・茶染めなどの企画をマイカー宿泊者などに紹介している。

### (3) 大観荘せなみの湯における取り組み

かつては、瀬波温泉といえば7月から8月の夏の時期と年末・年始の間が年間の売上高であった。8月中だけで通常の3ヶ月分の売上高があった。1月から4月は新年会や歓送迎会などがあったが、現在ではそのような会も減少し、冬場の売上高の増加が課題となっていた。

そこで、「真冬に日本海の海岸に出て風雪を体験してもらおう。」という企画を関東方面に向けてアピールしたり、平日バイキングプランとして、「自分が食べたいものを！自分の好きなものを食べて！温泉に入ってゆっくりできる。」という企画を、新潟市内のご年配のご夫婦に向けてアピールしたり、砂浜に温泉を作ったり、宝探しゲーム・7月下旬～8月下旬まで（大雨と風が海側から吹いている日を除き）毎日午後8時に花火を打ち上げる企画をするために、従業員で花火師の資格を取ったりして努力した結果、村上市内や近郷の方を含めたりピーターの人々の獲得に成功している。「まさに、継続は力なりと実感している。」

平成18年からはハワイアンフェスティバスとして、毎年8月末の土曜日・日曜日には、フラダンス教室や、フラダンスクラブの発表の場として定着しつつある企画もあり、遠くは九州からハワイアンの人が来たり、東日本大震災の後には、福島県のハワイアンセンターの方々が参加したりした。

### (4) 大観荘せなみの湯の現状

平成4年頃から一年間を通じて喜んで来ていただける施設を作ってきた。新卒の若い社員を採用し、外部講師を招いて新しいサービ

スの形を構築した。年配の社員が多かったが、現在では若い社員が全体の70%を占めるまでになっており、毎年10名を採用しており、地元と通勤範囲圏内の他に、新潟市内からも2～3名の採用もあることから社員寮も完備している。また、新卒者の採用試験は内申書と面接・作文の試験を行っているが、特に、面接における協調性・身だしなみ・挨拶・笑顔・会話の仕方などの重視している。

### ※質疑応答

- ①閑散期における集客方法のアイデアがどんな所からでるのかお聞きしたい。(五泉)  
・社員・お客様のアンケート・他の観光地の様子などがあるが、マスコミ(業界紙や情報誌)の情報が大きい。ただし、バイキングについては他の宿泊施設と同じものやってもだめなので差別化を図るとか、吹雪体験などは従業員との話し合いからでてきたものである。
- ②高速道路が延長になってきている現在において、県内の月岡温泉や近くの山形県内の温泉などと、将来的にどのように関わっていこうと考えているのかお聞きしたい。(新潟商業)  
・あつみ温泉ICが平成27年度から着工予定であるが来春から「名古屋から1泊で来れる。」という企画で、遠い所へのアプローチを考えている。また、将来的には東北への通過点になる恐れもあり、今から秋田県や青森県への情報発信も考えている。

### 6 講演 ②

演題「市民の心意気でまちを活性化しよう！」  
講師 村上町屋商人会 飯島 久 様



#### (1) 村上町屋商人会誕生のきっかけ

平成10年に村上市在住の吉川真嗣さんが当時、中央商店街はまったく人通りがなく、「何とかしなければならぬ。」と思っていたところ、全国町おこし会の福島県在住の五十嵐大輔さんに「村上には大変貴重なものがあり、村上の建物を見せた方がよい。」と言われて、自分のお金で、村上絵図を作成し「ぜひ、町屋の中をお客さんに見せてあげて欲しい。」と市内をまわる活動を始めた。当初は、中央商店街のお店の方は興味がなかった。一年間の吉川真嗣さんの活動や行動を見ていた賛同者により、平成11年に村上町屋商人会が1店舗3万円を出資し、7店舗の賛同により発足した。現在は、70店舗のお店が加盟するまでになっている。

#### (2) 村上町屋商人会取り組みの経緯

平成12年には「雛人形を飾って欲しい。」と各店舗にお願いしたところ、しもた屋さんを含めて20軒の賛同を得て、第1回の「お人形さま巡り」が始まった。参加店会議で確認されていたことは「店のものを売ろうとしないこと。10人のお客さんが来店しても誰1人として店のものは買わないで帰ることがあたり前である。普段着の言葉でむかえる。」ということを徹底することであった。つまり、押し売りの言葉は言わないということである。

当初、賛同した者の中には「お茶やお菓子

を買わないのに人形だけ見て帰るのはおかしい。」という考えを持つ方もいた。また、「1ヶ月間で3万人の人が来れば成功。」と考えていた。しかし、平成12年3月12日のNHK教育番組「日本美術館」で取り上げられた影響が大きく、県外の親戚や友人からの問合せが女性中心に市内在住の方にあたりして、第1回目「お人形さま巡り」は6～7万人の人出となった。その後、回数を重ねるたびに、見学に来たお客様の口コミで「町屋がよい。」ということで男性のお客さんが増えてきた。行政にはまったく頼らないで、町屋商人会を中心に活動を続けていたところ、平成13年には「全国各地方の町おこしイベント」でどこが一番良かったかという表彰で賞金100万円をもらった際は、「各店舗で1万円ずつ分けるか。」という意見もあったが、この賞金をもとに写真集を作り、1部1,000円で販売し、そのうちの一部を手数料とし、商人会の運営費に充てた。

第1回「お人形さま巡り」では、町屋商人会の小杉和也さんの発案で、当時の村上小学校の校長先生に協力を願い、当日の朝9時に生徒・保護者で作った紙のリングテープを使ったテープカットをしたり、地元の歌を歌ったりして開幕式を行った。その当時は「授業時間に生徒を参加させる。」などとは考えられる時期ではなかった。

平成13年9月10日からは「屏風まつり」が始まり、平成14年からは、その年から村上駅長に赴任した平原駅長のはからいで、SL列車を走らせるようになった。村上中等高校（旧村上女子高校）の生徒さんが駅で着物の着付けやお茶出しを手伝ったり、村上東中学校の生徒さんがポストカードを作成しSL列車内で配布したり村上駅での送迎会が始まった。その後、特急の脱線事故があり、「華々しい送迎会をやっても良いのか。」という意見

がでて、「祭りごとはだめ。」という風潮になり、SL列車も中止になるかもしれないという事態になった年には、町屋商人会で送迎会を企画・運営したりして、苦労もあったが現在では村上郵便局や市内の銀行職員も協力するようになってきている。

その後、「竹灯籠まつり」「黒塚1マイル運動」などの企画も始めたが、平成24年3月には「お人形さま巡り」の10年目を記念し、「お人形さま仮装行列まつり」を企画することで、テレビをはじめとするマスコミにも更に取り上げるようになった。近年では瀬波温泉「町屋巡り手形」を発行し、宿泊客を送ってくれるようになり、市内の生徒も就職先として希望するようになってきている。

### (3) 企画段階での問題点

平成12年3月から始めた「お人形さま巡り」の成功当時から吉川さんの企画に対して、「タダでお人形さまを見せることはない。手形を¥1,000で売ればよい。」という考えと「人がいっぱい集まったからお金をもらう？」という、相反する考えが常にあり、いろいろな企画が大きくなっていく中で、主催者に対して参加している人の歩行マナーや開催期間中の問題・駐車場の問題などがクローズアップされてきており、また、マスコミに取り上げられる機会も多くなり、経費の面でも今までのように中央商店街だけでは厳しくなっていており、今後は県や行政に任せることも検討している。

### (4) 村上市町おこし今後の取り組み

『村上大祭』については「村上のお祭りは、我々が楽しむものだから観光客に見せびらかす必要はない。」という誇りを持たた。長く続くのはリピーターの存在があるからである。

以前、村上女子高校において「都会に出る卒業生が多いので、村上にはシャケを扱う文化があると広められるように、村上市民会館

で割烹や旅館の華板さんを講師にして料理講習会を行いたい。」と申し入れ実施したところ、当時の生徒に好評であり、その企画は3年間続いたという経験がある。

今後、市外に対しては村上＝「酒・シャケ・情け」の街でアピールして行こう！例えば、「村上の良い所です。お口に入るのは、まず、おいしい。村上は大きな自然災害がなく。大火もなく自然と歴史が豊かなところですよ。」

また、市内には地産地消を推進して行こう！例えば、道路拡張工事に伴う建て替えの時に村上市内の業者に依頼することで、請負業者がお茶を買ってくれる。また、お酒については祝いの席に持っていくのは松竹梅や月桂冠ではなく、メ張鶴と太洋盛が喜ばれる。コンビニエンスストアではなく各店舗前に自動販売機を設置するなど地元志向をアピールする。

そこで、シャケ料理ができるようになることで「村上」に誇りを持たせる指導も時には必要なのではないかと思う。新しいものだけではなく、古いものの復活も時には必要だと考える。

### (5) まとめ

先生方へ、高校3年生になったら自分の育った地域（通っている学校の地域）のことを教えてほしい。就職試験の面接で村上のことを知らない生徒が受験に来ている現状がある。

### ※質疑応答

①以前何かで読んだのですが、吉川さんのお話の中で景観作りに苦勞していると書いてありましたが、内容をお話しいただきたい。（長岡商業）

・村上市の都市計画は40年前に創られたものであり、道路拡張反対の立場で吉川さんはいる。「昔からの城下町の町並みがよい。」と考えており、「狭い道路があり、アーケー



ドのある町並みがよい。」という思いから近年町屋再生事業の一環として、「黒塀1マイル運動」を立ち上げている。

- ②新潟市内のようすを見ると万代地区と古町地区で競争していた時代から郊外店の発展がめまぐるしいと感じているが、村上の中央商店街ではどのようにお考えか聞かせてほしい。

(新潟商業)

- ・物を売るだけだったら郊外店が良いが、何でもかんでも良いわけではないと考える。買い物をしたついでに話をしていくという考えで、「村上には店の人が自分の話を聞いてくれて、話をしてくれる店が多い。」とか「雨が降ってもアーケードがあるから買い物がしやすい。」などと思ってもらえたら良いと考える。

## 7 町屋見学

案内 村上町屋商人会 理事 飯島 久 様

- ①吉川酒店・山上染物店（えびす坂）を見学  
②黒塀通り(寺町)を見学  
③崑っ川(大町)を見学・説明



- ・村上町屋見学を一番最初に実施した店舗であり、戦略上の建物として70mの通り間があり、その頭上に鮭が吊し干しにされている。家の中は1年中窓を開けており、子供たちは冬になると家の中でもアノラックを着て遊んでいる。村上では昔から鮭を大

切にしており、頭から尾っぽの先まで食すために120種類もの料理が考え出された。また、村上の鮭は地球上で一番走行距離の長い鮭であり、くわえて日本海側の海流に逆らって昇ってくるため脂身が少ないため、それを補うために1ヶ月間塩に漬け込み、その後水洗いして頭を下にした状態で吊り干しされていることから「塩引き鮭」と呼ばれるようになった。鮭の身質により選別し、一年間吊り干しにしたものを「酒びたし」と呼ぶが、村上独特の考え方で「切腹させてはいけない。」ということで、鮭のお腹は1ヶ所だけ切らずに内臓を取り出すことが村上鮭の特徴と言われている。県や市などの行政の助成はないが町屋の見学を続けてきている。

- ④小杉漆器店（上町）の見学

- ⑤富士美園（長井町）の見学・説明



- ・京都などにある関西風の町屋と違い、村上の町屋は広い通りから中へ入ると店の間・茶の間・台所の順に建てられていること。あえて茶の間の梁組みを見せたり、仏壇と神棚が同じ位置にあることが特徴である。これは神仏を踏まないということで二階を作らない。隣の家の壁と柱を共有することで天窓を明かり取りにするためだったり、火災のさい火をまっすぐに上げることで、時間を稼いで隣の家を倒壊させ、類焼を減らすための工夫とされている。